PDF 版

事故を防ぐために

- 花火はもともと危険性をともなう遊びだということを念頭において遊びましょう。
- 花火のパッケージや本体に記載されている注意事項を守りましょう。遊ぶ前に明るいところで商品をチェックし、説明書などをよく読んでおきましょう。
  - ●点火にはマッチやライターを使わずローソクや線香を用いる
  - ●打ち上げ花火を絶対に覗き込んではいけない
  - ●変形しているものは異常燃焼などの危険があるので使用しない　など
- 万が一事故にあったときは、すぐに専門医を受診しましょう。
- 事故品などが残っていた場合は捨てずにとっておきましょう。賠償に関してだけでなく、商品の改善につながることもあります。
- 被害者が子どもに多いのは、花火の性質をよく知らないためとも考えられます。子どもが小さいうちは、必ず親などと一緒に遊びましょう。大人は子どもの行動をよく監視し、火を使うことの危険性をしっかり教えましょう。
- 花火のローソクなどによる着衣着火の事故もあります。浴衣や長いスカートなどを着ている時は、袖やすそに火が触れないように気をつけましょう。

事故を防ぐために、業界へ以下の要望をしました

- ●被害の未然防止・拡大防止のため、品質をより一層向上させてください。
- ●製品上の問題と見られる場合は、回収するなどの速やかな対応をしてください。
- ●花火の種類に応じた点火位置の明確化や事故が起こりやすい構造を見直すなど、事故事例を積極的に収集し一層の原因究明に努めてください。
- ●製造から店頭販売まで花火の品質変化を調査してください。
- ●リーフレットなどのわかりやすい広報活動により、取扱方法についての注意喚起を積極的に行ってください。

●本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。
http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html

●本内容について、詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページに掲載しています。
http://www.kokusen.go.jp/

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、協力病院等から収集した情報をもとに、
被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。
特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。
商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。
無断転載はお断りいたします。

独立行政法人
国民生活センター
〒 108-8602 東京都港区高輪 3-13-22　TEL.03（3443）1208　● 2010 年 7 月発行

デザイン＝花村デザイン事務所／イラスト＝ヒラヤマ ミワ

くらしの危険 Number 296

花火の事故

夏の風物詩「花火」。夜の闇に浮かび上がる可憐な花火は、大人も子どもも手軽に楽しむことができます。一方で、花火による事故も毎年多数寄せられています。花火は楽しい半面、火や火薬を用いるため危険が伴います。取り扱いには注意が必要です。

花火の事故の傾向

危害情報システムには、花火の事故が夏場を中心に毎年 60 件前後寄せられています。

事故にあうのは 10 歳未満の子どもが多く、特に 5 歳以下が目立っています。どの年代でもやけどが圧倒的に多くなっています。

手に持つタイプの花火では「火花がかかった」「持っていた部分が暴発してやけどした」などの事例が寄せられています。打ち上げ花火などの飛ばすタイプでは、件数は少ないものの「眼に当たって失明」などの重篤な事例も見られます。

PDF 版

こんな事故が起きています

手持ち花火

ケース1　手持ち花火をしていたところ暴発し、
近くにいた子どもが首、手、足にやけどを負った。
（4歳　男児）

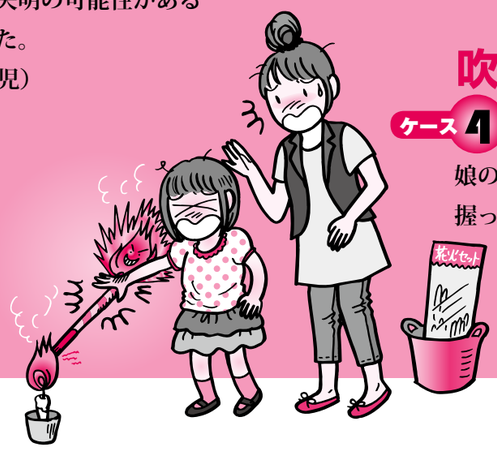
打ち上げ花火

ケース2　打ち上げ花火を点火したところ、
逃げる間もなく爆発して左眼にあたり、
眼球が破裂して失明した。
（50歳代　男性）

ロケット花火

ケース3　ロケット花火を地面に刺し込み打ち上げたところ、
ロケットの頭部だけが飛んで子どもの眼に衝突。
医師から失明の可能性がある
と言われた。
（2歳　男児）

吹き出し花火



ケース4　幼稚園でもらった花火セットの吹き出し花火。
娘の花火に着火したら
握っていた部分が爆発して右手をやけどした。
（4歳　女児）

回転花火

ケース5　回転花火を取扱説明書どおりに着火したら、
いきなり火を噴きながら真横に飛び、
妻がわき腹をやけどした。
（20歳代　女性）

花火大会等での打ち上げ花火

ケース6　海上花火を見ていたところ、
強風に乗って落ちてきた落下物で左眼を強打した。
（40歳代　女性）

花火の事故の問題点

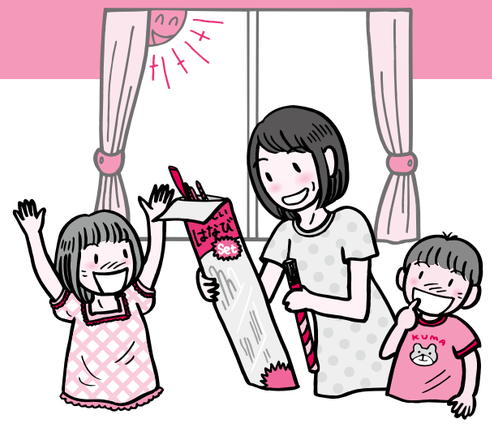
◉花火はそもそも火薬や火気を用いた遊びであり、娯楽性と危険性が混在する面があります。それらを前提に楽しむ点が、他の娯楽製品との違いです。

◉被害者が子どもに多いことから、花火の性質や危険性を十分知らなかったための事故も考えられます。潜在的な事故件数はさらに多いと推測されます。

◉花火による事故は医学会でも複数の医師から報告されています。特に、角膜のやけどは治療後の経過が良くない、打上げ花火による被害は重症となることが多い、などのコメントがあります。

◉事故原因の背景には、最近の遊びや生活環境の変化により、親世代を含め、消費者が実際の火を使う行為自体に不慣れになった面などもあると思われます。しかし、消費者側にだけ原因があるとは言いがたい事故事例も見受けられます。

◉ SF マーク*付きのおもちゃ花火では、花火自体の欠陥で消費者に損害を与えた場合、賠償されるとしていま



す。しかし、花火の特性上、事故品は燃焼して失われてしまうものであり、欠陥を証明することはなかなか難しいようです。

◉各メーカーでは、被害の未然防止、拡大防止のため使用上の注意を分かりやすくする、（社）日本煙火協会作成のポスターを配布するなどの事故防止対策も進めているようですが、消費者に十分に伝わっていないのが現状のようです。

＊SFマーク

Safety Fireworks の略称。国内に流通する国産・輸入品のおもちゃ花火で、社団法人日本煙火協会が行う検査に合格したものにつけるマーク。ＳＦマーク付き花火がそれ自体の欠陥で消費者に損害を与えた場合には賠償されることとなっている。ただし、本人の過失・不注意による場合は賠償されない。